

人権作文から平和を考える

平和に向けて

「戦争は最大の人権侵害である」と言われます。市立学校では、戦争の悲惨さや平和の尊さ、命の大切さについて学習しており、その一環として、市立中学校の生徒代表が被爆地広島を訪ねています。

今回は、一昨年参加した山下夏穂さんの人権作文を紹介します。(作文作成当時は、南中学校三年生)



私の家のお座敷には一枚の写真があります。その写真に写っているのは私のひいおじいちゃんの弟にあたる人、「たかしさん」です。

一九四五年、たかしさんは二十歳という若さで特攻隊として召集されました。特攻隊とは「特別攻撃隊」の略で、第二次世界大戦中日本軍が行った、飛行機などで敵の戦艦に体当たりする攻撃を行う部隊のことです。

私は昔、当時のことをひいおじいちゃんに聞いたことがあります。その時、ひいおじいちゃんから聞いた話は、あまりの衝撃で、今でもその内容を鮮明に覚えています。

中でも一番衝撃だったのは、召集がかかった日、大喜びで家族みんなでお祝いしたということでした。自分の息子や兄弟が確実に死んでしまうだろう任務を下されたとき、皆さんは笑ってお祝いできますか？笑顔で「おめでとう」と言うことはできますか？私には

できません。

ひいおじいちゃんは言っていました。戦争中は国民皆洗脳状態にあったと。国のために死ぬのならば死ぬのなんか全然怖くない。国のために死ぬるなんて私の誇りだ。特攻隊として行く人だけでなく、戦争に兵隊として行く人もみんなそう言っていたと聞きませんでした。今の日本では本当に考えられない怖い世界だったのだなと思います。

福岡県の筑前町には、大刀洗平和記念館があります。そこには、たかしさんの手記や家族にあてた手紙、遺品や写真が展示されています。

展示品の中にあるたかしさんの手記には家族に向けてたかしさんのメッセージが書いてありました。「大丈夫。心配するな」「弟元氣か？家族みんなはお前が守れ」

少しも弱い自分を見せず、常に強気で一番に家族のことを考えていたたかしさんは本当にすごいと思います。大刀洗平和記念館には、亡くなった方たちの写真もた

くさん飾ってあります。小さい子どもからお年寄り、外国の方の写真もありました。ただの国同士の争いに巻き込まれ、何の罪もない人までもがたくさん亡くなってしまう。もうこんな悲しいことは二度と起こってほしくないと思います。

私は昨年、八女市の平和事業に参加し、広島県で戦争について学んできました。戦後七四年がたった今、戦争体験者は減ってきています。戦争の記憶が風化していく中、これから先の未来に戦争のことを語りつぐことができるのは、戦争体験者の生の声を聞くことができた私たちだけだと思います。

ひいおじいちゃんから聞いた話や、広島で被爆者の方から聞いた話を、これから先の未来で二度と戦争が起こらないように次の世代にしっかりと語りついでいきます。



山下夏穂さん